

~WALK LONG BEYOND THE BORDER~

今、長く歩く、ということ

“The world reveals itself to those who travel on foot.”

-Werner Herzog

トレイル研究家

長距離自然歩道

信越トレイル

UJハイキング

熊野古道

WALK JAPAN / The Japan Travel Company

登壇者：勝俣隆 | 神田修二 | 木村宏 | 土屋智哉 | 多田稔子 | ポール・クリスティ

日時 2022年3月5日（土） 14:00～17:00

オンラインにて開催

配信 https://youtu.be/czw_EfkK0fs

お申し込み不要



当日用QRコード

プログラム *コロナウィルス感染拡大防止のため登壇者も全員オンラインで参加します。

○基調講演：「長距離自然歩道の変遷」

14:05～14:55

神田 修二 氏 いであ株式会社 国土環境研究所 生物多様性研究センター長

○話題提供：「長く歩く旅ということ」

15:00～15:20

長谷川 晋 (一社)トレイルブレイズ ハイキング研究所 代表理事

○懇談会：テーマ： ロングトレイルの構想、整備、運営

15:20～16:55

ロングトレイル の利用実態

登壇者：勝俣隆氏 | 神田修二氏 | 木村宏氏 | 多田稔子氏 | 土屋智哉氏 | ポール・クリスティ氏

基調講演：「長距離自然歩道の変遷」

神田 修二 | SHUJI KANDA

東京大学農学部林学科（森林風致計画）卒。
1979年から2013年まで環境省に在籍。その間、中部山岳、伊勢志摩、十和田八幡平の各国立公園管理事務所等勤務の後、福井県自然保護課長、環境省国立公園課長、東北、九州及び中部の各地方環境事務所長等を歴任。2013年5月より現職。2013年～2018年にかけて首都圏自然歩道を全線踏破。2019年～みちのく潮風トレイルを北上中。



他、懇談会登壇者

勝俣 隆 | RYU KATSUMATA

長い北中米勤務時代にULハイキング黎明期の胎動を本場アメリカで体験した日本のULハイカー第一世代の中心人物。ハイキングの文化的歴史的背景にも造詣が深い。ジョン・ミュアとソロウの研究をライフワークとする。夏はシエラネバダのトレイルで過ごすことも多く、日本人で最も彼の地の情報に精通しているハイカーと言っても過言ではない。著書『Planning Guide to the John Muir Trail』（Highland Designs）



木村 宏 | HIROSHI KIMURA

ホテル、リゾート開発企業の勤務後、長野県に移住。宿泊施設経営後、日本型DMOの先駆け、信州いいやま観光局を運営。観光関連施設運営、着地型商品造成、観光まちづくり事業を展開。森林保全活動をきっかけに、日本のロングトレイルの父、加藤則芳と出会い「信越トレイル」の整備・事業化に取り組む。現在、北海道大学観光学高等研究センター所属。日本のLTの普及活動にも従事。



多田 稔子 | NORIKO TADA

和歌山県生まれ。和歌山大学教育学部卒業。一社）田辺市熊野ツーリズムビューロー会長。2004年に世界文化遺産登録された熊野古道に、外国人個人観光客を呼び込み、歩く人がいるからこそ古道が守られ、巡礼文化が継承できることを観光という手段で実践してきた。2015年から始めたサンティアゴ巡礼道との共通巡礼のプロジェクト「DUAL PILGRIM」は、3500人を上回る達成者を生んでいる。



土屋 智哉 | TOMOYOSHI TSUCHIYA

古書店で手にした『バックパッキング入門』に魅了され、大学探検部で山をはじめ、その後洞窟探検に没頭する。米国でウルトラライトハイキングに出会い、自らの原点でもある「山歩き」「歩き旅」の素晴らしさを再発見。'08年、ウルトラライトハイキングとロングトレイルをテーマとしたショップ、ハイカーズデポを三鷹にオープン。シンプルなハイキングスタイルとロングトレイルの魅力伝えていく。著書『ウルトラライトハイキング』（山と溪谷社）



ポール クリスティ | PAUL CHRISTIE

ロンドン大学経済学部卒業。同大東洋アフリカ研究学院にて日本語専攻。'87年初来日、'89年以降、日本経済新聞のアナリスト、パラップス・ジャパン株式会社 代表取締役、NHK等のドキュメンタリープロデューサー等を務める。'02年大分県国東半島へ移住。その後、インバウンドツアーを企画募集するWalk JapanのCEOとなる。'10年にThe Japan Travel Company(株)を設立し現在取締役。'16年より内閣府クールジャパン・アンバサダー。



～WALK LONG BEYOND THE BORDER～

今、長く歩く、ということ

国内に28,000キロ張り巡らされる、10本の長距離自然歩道。様々な課題を抱える現代社会において、日本の自然、地理地形風土に根差し、積み上げられてきた歴史文化、人々の暮らしを、今、長く歩いて旅し、その繋がりを五感で感じ、人という種が自然の一部として地球上で他の生命体と共存していくために、いったいながが必要か、見つめ直す場として長距離自然歩道がある、と仮説をたてたい。

自らの身体を地球の上に放ち、長い時間をかけ、様々な境界を超え、長く、自分だけの意思で、自分だけの二本の足で歩く。連続した長距離であるからこそ、旅人は日常身をおく「社会」から離れた非日常を獲得し、じきに、日常の中でいつのまにか凝り固まってしまった思考の殻は剥がれ始め、生き物としての、生きるために必要な自由な創造力取り戻せるのではないか。

長いからこそ非日常は日常となり、それでも生きていける「自分」を再確認する。離れてみて改めて、社会の中で生かされている自分を再認識する。

そのフィールドとなる長距離自然歩道／ロングディスタンストレイルはどのように、どんな人によって構想され、整備され、運営され、利用されているのか。また、トレイルをハイカーが歩くことがどのように地域に影響を及ぼし、地域はどのようにハイカーらの歩く旅を支え、トレイルやハイキングの魅力向上につながっているのか？トレイル運営の現場、利活用の現場にいる皆様から、その実態と、トレイルを支える思想、意義について、懇談していただく。

